

## エピソード60

娘は男の先生を怖がっています…  
と保護者が言っています



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験  
があります。エデュサポネットのファ  
シリテーターです。



小学校で学級担任をしている先生の経験を紹介します。

僕が教師になって6年目のことです。初めての転勤、初めての1年生担任になりました。

それまで、中学年の担任だったので、1年生の担任は不安がたくさんありました。でも、5年の経験値は教師としての自信になっていました。





入学式はいかがでしたか？

僕も子どもも緊張の面持ちでしたが、式も無事に終わり、一安心でした。ところが、一人の女の子がとても不安をもっていたんです。

式の翌日、その子は学校で普通に過ごしているように見えました。でも、お母さんが書いた連絡帳には、女の子もお母さんもかなり不安な気持ちでいることが綴られていました。





どのようなことが書かれていたのですか。

「明日の持ち物は、〇〇で間違いないでしょうか？△△も持たせたほうがよいですか？」

「家ではおなかが痛いと言っていました。様子を見ていただけると助かります。」その後も、頻繁に連絡帳や電話での問い合わせもあり、かなり心配されていると感じました。





そうですか。先生は、それでどうされたんですか？

日々の生活の中で、その子を注意深く観察しました。すると、かなり真面目に取り組む姿が印象的で、頑張り過ぎているのでは？と感じました。

そこで、クラスの雰囲気が和やかになるために、手遊びや絵本の読み聞かせを取り入れ遊びを充実して過ごしました。その様子が見えるように、学級便りを作成し、保護者に発信していききました。





その後、お母さんの様子はいかがでしたか？

4月末の家庭訪問でその子の家に行った際、お母さんから子どもについてお話がありました。

「幼稚園までずっと女の先生だったので、実は入学式で男の先生だったことから、うちの子はものすごい不安だったんです。怖かったどうしようかとか、怒られたらいやだとか。でも、先生がいろんな遊びをしてくれたおかげで、娘も先生が大好きだと話しています。学級の様子もわかり安心です。これからもよろしくお願いします。」







そうでしたか…。それは、良かったですね。

1年生としてはよくあるよくある事例の一つだと思います。いかに子どもたちが小学校を「楽しい!」と思えるか。手遊びなどの取り組みは、その時、組んでいた先生から教えていただいたものです。

経験がないからこそ、学年の先生の経験を教えてもらい生かすこと、何より子どもが不安よりも楽しさを感じることができるようになることの大切さを学びました。そうすることで、保護者の不安な気持ちも解消し、よりよい関係が築けることも経験できました。





## なみちゃんの一言

- この後、次のような素敵なお話も聞かせてもらえました。

10年後、女の子は高校2年生。高校の授業で、自分のなりたい職業に関連した論文を書くために、私を訪ねてきました。“子どもたちが安心して学校生活を送るためのサポートをしたい”とのこと。1年生の時の思いが今もまだ忘れていないらしく、わざわざ連絡をくれました。教師としてのやりがいをあらためて実感しました。



お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保  
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)